

一枚あれば超便利! 「風呂敷」は究極のエコバッグ!

のん
ちゃんいろいろ体験記
SDGs編

エコバッグを持ち歩いている方は多いと思いますが、結構かさばり困ることも。そんな時は「風呂敷」の出番! 「風呂敷専門店」**「むす美」**では、現代の暮らしに合わせた風呂敷の活用方法などを発信するため、様々なワークショップを行っており、今回は、エコバッグにする包み方を教えてもらいました。

「風呂敷」の由来は、室町時代。身分の高い人がお風呂(蒸し風呂)に入る際、布を床に敷いたり、脱いだ着物をほかの人と間違えないよう、家紋入りの布で包んでおいたのが始まりといわれています(諸説あり)。

ワークショップではまず、基本の「真結び」「ひとつ結び」を習います。どんな包み方も、この二つの結び方を組み合わせるだけでOK。正しく真結びができていれば、重いものを包んでもほどこけません。エコバッグ

だけでなく、ティッシュBOXカバーやバッグカバーにも、変幻自在に形や大きさを換えられるのが、風呂敷の最大の魅力です。見た目は



風呂敷専門店「むす美」 東京都
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前2丁目31-8
TEL : 03-5414-5678
HP: <https://www.kyoto-musubi.com/>
【営業時間】12:00~18:00
※営業時間は変更になる場合があります。
※京都店及びワークショップの詳細はHPをご確認ください。



包み方の動画を公開中!



複雑そうですが、結び方が基本の二つだけなので、思ったより手早く簡単にできました。

昔は古くなった着物をほどこき、風呂敷として再利用していたそうですが、最近では、風呂敷でラッピングしてプレゼントする方も多く、「むす美」で売られているものは素材やデザイン、大きさなど実に様々。お気に入りの一枚を見つけて、長く愛用するのもサステイナブル。ぜひ、取り入れてみてはいかがでしょうか。

葉山の未来のために「一人ひとりができること」

神奈川県・葉山町の取り組み

「日本ヨット発祥の地」といわれ、昨年の東京オリンピックでは、沖合でセーリング競技が行われた神奈川県・葉山町。皇族が静養される葉山御用邸があることでも有名です。そんな豊かな自然に囲まれた葉山町では、2019年より「はやまクリーンプログラム」を策定し、環境を守る独自の取り組みを進めています。

まずは、海洋汚染につながるプラスチックごみ削減のため、公共施設からペットボトルの自販機を一扫。代わりにウォーターサーバーを設置し、職員や町民にマイボトルの使用を呼びかけたほか、町内のイベントでは、プラスチック製品の使用・持ち込みを禁止するなど、様々なルールを設けました。

今年6月には、同プログラムの一環として「はやまエシカルアクション」がスタート。町民や事業者の人・地域を思いやった行動、取り組みも応援することで、環境改善だけでなく、地域活性化、住みやすい街づくりにも力を入れています。

山梨県山梨市山梨町長は、元ウインドサーフィンの選手で、長年葉山の海に親しんでいることもあり、葉山の自然を次世代につなぐことを目指し、同プログラムを主導しています。環境を守るためとはいえ、様々な変革・厳しいルールには、一時反発する人もいましたが、町を愛する気持ちは皆同じ。今では、「一人ひとりができること」を台言葉に、官民一体となってプログラムを推進しています。



6月8日、運動本部・鈴木恒夫代表(左)より山梨町長へ「小さな親切」実行章を贈呈。